

学 園

地方競馬益金事業

題 字 理事長 長野 士郎

平成8年6月1日発行

財団法人

中国四国酪農大学校

電話 (0867) 66-3651

FAX (0867) 66-3652

だ よ り



希 望

財団法人中国四国酪農高等学校

校長 古好 秀男

彼岸過ぎて七雪とか、三寒四温とは、昔の人はよく言ったものである。

地球の気象の変化を司る北極、南極、赤道によつて起こる水蒸気、冷却、偏西風を論議するのではなくて、本当に長い間の経験に基づいて気象条件を知り尽くし、季節の気象の変化を見事に表現しているものである。

それにしても、今年の冬は記録的な積雪であると気象庁も驚いていると報じている。

蒜山地方も決して例外ではない。四月中旬というのにみぞれ混じりのぼたん雪が風に揺られてふわり、ふわりとまるで寒さと楽しむ様にゆつくりと舞い降りてくる。

なにげなくぼんやりとその光景を眺めていると、まるで雪のすだれの間、野山が震えている様に見えるから不思議である。

来る四月五日に、第三十二期生三十一人の入学式を大勢のご来賓のもとに盛大に挙

て、早や五週間が過ぎ、五月というのに、酪農高等学校のキャンパスから眺める雄峰大山、蒜山三座の黒い岩肌の間に残る季節はずれの雪の白い姿は、まるで墨絵のように実に見応えのある光景である。

私が最近思っていることは、どんなに力を入れてみても、一人では後継者には成り得ないと言ふことである。

勿論、酪農高等学校も酪農後継者を養成する学校として、実践教育に懸命に取り組んでおりますが、男性も女性も若者が、一人では後継者の予備群となるものの、決して後継者になりきれないものである。後継者になるには、その人にふさわしい最

良の相手を見つけて、結婚して落ち着き、自分が目指す仕事に身が入って、始めて本当の意味での後継者になると、最近、痛切に感じている。

真の後継者、担い手を貴方はどう思いますか？

輸入自由化に伴う国際社会の中で、激動する経済動向が落ち着き、安定するまでには相当の年月が必要と思われませんが、決して迷うことなく、自分に必要な情報を的確に分析し、常に先見性をもつて計画・立案・実行することが目的を達成する最大の課題である。

ご多忙とは思いますが、時間を見つけて是非酪農高等学校に足を運んで下さい。

お待ちしております。

も く じ

- 巻頭言
- 校長 古好秀男…………… 2
- 教務課だより…………… 3
- 卒業生短信…………… 4
- 学生だより…………… 4
- 第一牧場だより…………… 6
- 第二牧場だより…………… 7
- 卒業生名簿…………… 8



教務課だより

酪農後継者、技術者、酪農ヘルパー等の養成

を目的と

して、

専門

科目

や一般教

育科

目の

カリ

キュ

ラム

の充

実を

図る

とと

もに、

校外

から

の体

験実習生の受入れを実施するなど、積極的な

PR活動を行いました。

主な行事・活動は次のとおりです。

○卒業証書授与式

平成八年三月二十六

日、第三〇期生の卒業

証書授与式が挙行され、

希望に燃えた若人二十

八名(別表)が本校を

巣立って行きました。

○第三十二期生入学式

平成八年四月五日、

新しい時代の酪農を担

う若者三十一名(別表)

が入学しました。

○酪農ヘルパー研修生の受入れ

平成三年に、(社)酪

農ヘルパー全国協会研

修施設の指定を受けま

したが、本年は二十一

名の研修生を送りだし、

ヘルパー要員の養成に

貢献しています。

○削蹄師講習会

(社)日本装蹄師会主催

の牛の装蹄講習会を

実施し、一般受講者と共

に三十期生二十八名が

受講しました。

○家畜人工授精師及び受精卵移植講習会

平成七年十二月十日

から家畜人工授精師講

習会が、また、一月二

十二日から受精卵移植

師講習会が開催され、

本校からも第三十期生

が受講しました。

○特別講義の実施

一般教養の部では幅

広い視野を有する人材

を育てるため、各分野

で活躍されている方々

を招いて、様々な分野

の講義を実施しするな

どカリキュラムの充実に努めました。

○レクリエーション等の開催

バレーボール・ドッチ

ボール・スキー等の競技

会を開催。

女子学生の茶道教室等

を開催するなど、学生の

課外活動の充実を図りま

した。

○その他

テレビ、新聞など各種

報道機関の御協力により、

学生の授業風景・生活状

況等を広く一般に紹介す

るなど、本校のPR活動

を積極的に推進しました。

職員紹介

校長 古好 秀男

次長 山下 稔

(総務部) 部長 大手 国栄

主事 小谷健一郎

主事 津田 清子

(教育部) 部長 草苺 耕造

教務課長 西家 忠治

技師 有安 則夫

運転技術員 池田 富幸

調理 道祖 タカ

臨時(常勤) 西田 良子

(経営部) 部長 (次長兼務)

第一牧場長 小阪 和正

技師 高見 剛

助手 樋口 照夫

第二牧場長 山田 徹夫

技師 錦織 拓美

技師 横内淳一郎

助手 磯田 博

臨時(常勤) 三牧 孝徳

卒業生 短信

酪農大学校を卒業してあわただしく一ヶ月が過ぎました。この一ヶ月間は新しい生活への緊張と慣れない生活に戸惑いをかくせない日々です。この頃になり、ようやく「酪大を卒業した」という思いを実感しています。

今私は酪農とは全く関係のない仕事をしていますが、この酪大での二年間という短い期間は私の人生において決して忘れることのできない二年間となり、またすばらしい人々に出会えたことに感謝しています。

「牛を飼ってみたい」という思いだけでこの酪大に入学し、親元を離れてのはじめての寮生活に不安を抱きながら女子寮に入寮したあの日のことも、今から思えば笑い話です。また二牧に行つてポプラ並木をジャージーをつれて歩きたい、パーラーで搾乳を試みたい、という思いが実現したあのことの思いは生涯忘れることはできないでしょう。炎天下の下での乾草あげや、秋にみんな毎日わらを取りに行った時のつらかった思いも、今ではたんぼの中で食べたお昼ご飯の方を思い出してしまいます。

冬になると生まれてはじめてみる雪の多さにびっくりし、はじめの頃は喜んでいたものの、毎日毎日降り続き牧場内での雪かきや滑って転んだ痛さを知ったとき、もう雪なんてゴメンだと思つたのを覚えています。ですから私は冬はこたつの中にいつもいたように思っています。

二年生になって校外研修に行つたとき、自分の思い描いていたものとの違いにびっくりなり二ヶ月間がもう終わることがないのでは、と思つほど永いものに感じられ酪大での実習で少しはできる、と思つていた自分がとても情けなく思えました。また他人の家での生活はとても大変なもので、それが今自分にとって良い経験となり、大きなものになっています。十二月に学校に帰つてきてから友達と会つたときは「寮生活ってなんていいものなんだろう」と思いました。女子十三人が談話室に集まり、研修中に起こつたことを話したのを覚えています。

そして人工授精師の資格取得のとき、自分では勉強しているつもりでも友達と話していると不安になり、覚えているような気はするのだけど覚えていない自分にイライラした毎日でした。ですから合

格したときは一番に「よかった」という思いがきました。

思い出を書き続けたらきりがないのでこのへんにしておきます。今の自分があるのも酪大のおかげだと思います。私はいろんな方面で大きく成長した二年間でした。最後になりましたが、お世話になつた先生方、本当にありがとうございました。そしてこれからもよろしくお願ひします。

第三十期生

樽本 晴美

学生だより

今までの一年を振り返つて、そしてこれから……

私達がこの酪農大学校に入学して早くも一年が経ち、蒜山の厳しい冬も終わつてようやく暖かい春がやってきました。

今年の新入生は三十一人と、私達三十一期生よりも少し多く、楽しい毎日を過ごしているようです。

私は牛が好きで、将来は酪農に関する職業につき、いずれは酪農家に嫁ぐことができると考えています。もちろん入学する時も同じ気持ちで入学しました。

ここ酪農大学校は全寮制ということで、今まで寮生活をしたことのなかつた私は、住み慣れた家を離れ、他の人と上手くやってい

るだろうかと少し不安もありました。

人はそれぞれ個性を持ち、中には気の合わない人もいます。私はここで過ごした一年で、人と助け合い、許し合うことの大切さを知りました。他の教科書通りの勉強よりも大切だと思つと同時に、私にとってこれが一番の勉強になつたと思つています。

一年生も私達と同じように、これから沢山の問題に遭遇し、壁にぶちあたることでしょう。しかしそのことから目をそらさず、逃げずに、そこから何かを知り得てほしいと私は思います。

そしてもう一つ、改めて思い知つたのは、「やればできる」ということ。気の持ちようなんだという事です。

蒜山の冬は厳しく、作業もつらどれもこれもさぼりたくなくなるようなことばかりです。けれど、これも気の持ちようなんです。絶対やらなければいけないんだと思えばできるんです。

そして仲間の存在。これはとても大きな支えになりました。その当時はつらかつたこと、苦しかったことも、今思えば楽しい思い出です。同期生はもう校外研修に出してしまい、少し寂しい気はしますが、その分一年生が沢山

いるので毎日楽しく過ごさせています。

しかし、せっかく仲良くなれた一年生とも、もうすぐ、しばらくの間お別れしなくてはなりません。

これからは自分一人。六カ月という長い研修に出るにあつて多少の不安もありますが、自分にとってプラスになることは全て取得して来ようと思つています。十二月には胸を張つて帰つて来れるように、そして、先輩として一年生の良き手本となるように、精一杯がんばつて来ようと思ひます。

酪大の名誉と伝統に恥じないよう、酪大生としての誇りをもつて出発したいと思ひます。

第三十一期生

小松原理恵



夢

なぜ私が酪農を選びこの学校に入学したかという、動物が好きで自然が好きだからです。

空気が汚れていてゴミゴミしているのが自分にあつていないと思ったからです。こんな理由だから、最初この学校に入学して酪農の勉強を続けていけるのだろうかという不安がありました。

自分では乳や肉を生産する酪農は素晴らしいと思うし、得るものもあるだろうと考えていました。実際には本当にやり通せるだろうかという考えがいつも離れませんでした。

入学して一カ月。最初の仕事に慣れることに精

一杯で牛をじっくり見ることもできませんでしたが、最近仕事をしなから考えたり、牛に話しかけたりする余裕ができてきました。

親切な先生方がいろいろと教えてくださるので、大変勉強になっていきます。牛に対する気持ちも、ただかわいいと思うことに、偉大で大切なものという思いが加わり、ますます牛が大好きになりました。

それゆえに自分が哺乳乳をしていた子牛が”死んだ時”の悲しみは大きくて、これから何回もあるかと思うと気が重いです。牛のためにも、死ぬまではたっぷり愛情を注いでやって、牛も自分も後悔しないように、世話をしていきたいと思えます。

そして私の今の目標は人工授精師として働くことです。良い牛を作って今後の日本の酪農に少しでも貢献するのが今の夢です。

自分がやりたい事がはつきりしてきたので挫折の不安は今はありません。少しでもこの夢に近づけるよう、この学校で一日を大切に、多くの事を学ぶよう頑張っています。

第三十二期生

安斎さとみ



私の家では現在、搾乳牛成牛八〇頭、育成牛六〇頭、F1の肥育牛六〇頭を飼育しています。私も、小学生の頃から、家の手伝いをしていました。そして手伝いをしながら、酪農経営をする父を見ていましたが、最初

のうちは父に「お前もすきなことをしろ」と言われていたので、学校の先生か心理学者になりたいと思っていました。

第三十二期生

道下 真弘

しかし、手伝いをしていくうちに、自分の手でこの牧場を経営してみたいと思ってくるようになり、多くの知識と技術を身につけるため、この学校に入学しました。

わたしの将来の抱負ですが、酪農というのは、休みがないと思います。

私の家では、現在二人の従業員の手に手伝って

もらっています。それを三人に増やし、ヘルパー等も活用して、週に一回は休めるようにしたいと思っています。

併せて、今はF1の肥育を行っていますが、それを受精卵移植の活用によって和牛の肥育により安定した利益を得ることができるようにして、地域に根強い酪農をしたいと思えます。



著者は左側



第1牧場 だより

蒜山の地にも遅い春が訪れ、新緑の風薫る今日この頃となりましたが、卒業生の皆様にはお元気で御活躍のこととお喜び申し上げます。

第一牧場では、この度の人事異動により、伊藤場長が津山振興局の畜産係へ転勤になるとともに、有富助手が岡山県に奉職されることとなり、三月末日をもって財団を退職されました。(有富助手は現在、岡山県総合畜産センターに勤務されています。)

このため、第一牧場の陣容は、小阪場長を筆頭に、今春、高梁家畜保健衛生所から転勤してこられた高見技師と、卒業生の皆様にはお馴染みの樋口助手の三名となり、哺育牛から搾乳牛、肥育牛の飼養管理、また草地や飼料畑の管理実習と学生と共に汗を流しております。

今年冬は例年にない大雪となり、三月末まで草地に雪が残っている状態でした。このため、春先における

る牧草の成育が著しく悪かったのですが、他から粗飼料確保の手当ての目処がついたため、飼料畑の一部のイタリアンの収穫はあきらめ、現在、トウモロコシの播種の準備をしているところです。

しかし、ここに来て、晴天が続く、牧草の成育も徐々にながら回復しつつあります。

牧場においては、昨年の五月に岡山県総合畜産センターにおいて飼養されているスーパーカウの受精卵が移植され、今年一月に無事雌牛を産みました。

この雌子牛が産まれたことより、一牧のホルスタインの改良が一段と進むことが期待され、この子牛を大切に育成しているところとす。

肥育部門は現在のところ、第二牧場で生産され

たジャージー雄子牛とF1のみの肥育を行っています。このところ、出荷した肥育牛の肉質は、だんだんと良くなつてきていますので、次の目標としては出荷月齢の短縮を行いたいと思っております。

乳肉複合経営実証モデル牛舎の利用につきましては、ホルスタイン雌の育成牛、乾乳牛及び肥育牛を繁ぎ、有効に利用しています。受精卵の採卵実習用に飼育して

います和牛が今年二月に雌子牛を出産し、現在三頭になりました。

昨年は採卵実習はできませんでしたが、今

年は採卵を行っていきたいと思っております。卒業生の皆様の来校を職員一同心からお待ちしております。



飼 育 頭 数

平成8年4月1日

区 分	第1牧場	第2牧場
経産牛	44	88
未経産牛	6	7
育成子牛	22	41
乳用牛計	72	136
肥育牛	55	—
繁殖和牛	3	—
肉用牛計	58	—
合 計	130	136

第2はジャージー牛で放牧 (単位：頭)



新緑が目にもまぶしい季節となりましたが、卒業生の皆さま方には、いかがお過ごしでしょうか。

春の遅い蒜山地域ですが、今年は特に春の訪れが遅く、草の伸びが悪く心配しましたが四月末より温かい日が続きやっとなり平年並に回復してきました。

さて、四月に第二牧場の職員に移動がありましたので、お知らせします。

三年間第二牧場で学生実習等に活躍してきました有安技師が教務課に移り、横内技師が新規採用で配属されました。

去年はロールベールサイレージの調整が順調に進み、

良質な飼料が確保され、生乳についても予定通りの生産出荷することができました。

ジャージー牛の能力も今までの改良の努力と、飼養管理技術の向上で順調に上がってきました。

放牧は連年どおり、四月下旬より開始し、やっとなり蒜山の風物詩を見ることのできるようになり、

休日には放牧地の周りに人だかりができるようになりました。

現在は、一年生・研修生の指導、コーンの作付け準備と肥料撒布、牧柵張りとは忙しい毎日を送っています。

また、相変わらず、見学・体験学習の希望が多くその対応にも追われています。

去年は新本館が完成し

ましたが、来年以降第二牧場も堆肥舎を始め牛舎等の改築が計画されています。

卒業の皆さまからも、牛舎等についてのアドバースがいただければ幸いです。

お近くへお越しの節は、ぜひお立ち寄りください。

第十一回全国ホルスタイン全国共進会に集まろう！

酪農大学校を卒業され、現場でばりばり働いている皆さん、来る平成十二年に岡山県で「第十一回全国ホルスタイン共進会」が開催されます。

乳牛の改良と郷土の栄光を掛けて、皆さんが積極的に出品されることを期待しています。今から卒業生が一人一頭の出品を目指して、分娩・育成・成牛飼養管理技術の腕を磨いていこうではありませんか。

